

再生・活性化を果たした商店街事例 №23

魚の棚商店街(兵庫県明石市)

【取組の方向】 ex. 近隣住民のニーズ対応

「うおんたな」としての更なる商店街の魅力づくりに取り組む広域型商店街。店舗数101店(東西商店街)

○商店街の置かれた状況。
400年の歴史を誇る「うおんたな」商店街であるが東西の意思疎通が悪く、振興組合として2つに分かれていた。

○対応策
若手経営者の商店街改革の行動により、体制が若手に移り、一体的に「魚の棚商店街」としての取り組みが行える行動的な体制づくりができています。

○状況変化
JR明石駅前において大規模な再開発が進められており、都市としての集客度は増すが、2号線以南に位置する商店街への回遊性の確保が課題とされる。

○具体的取組
瀬戸内から上がる鮮魚及び加工品販売で有名だが業種に偏りが見られ、品揃え充実、中心市街地としての商店街への来街客の回遊性の確保から、「青空楽市」(バザール)の開設(3月)が進められている。

○具体的成果
中心市街地において、「青空楽市」の開設は、新たな商店街魅力の創出に繋がるものと期待される。

【地方自治体の取組】
再開発事業など中心市街地の整備、活性化に向けた取り組みが行われている。商店街としては、補助金前提の事業よりはむしろ自立的な活動に重点が置かれている。